

市指定史跡

元海底電線陸揚室

石垣市指定史跡 元海底電線陸揚室の概要

元海底電線陸揚室は、通称デンシンヤーと呼ばれています。日清戦争後に日本の領土となった台湾の監視と、植民地政策を進めるといふ軍事上の目的で、1897（明治30）年に陸軍省によって建設されました。本土と台湾を結ぶ通信網（海底電線）の中継地として、重要な軍務を担っていたのです。

このような時代背景はあるものの、先島における電信施設の始まりでもあり、1986（昭和61）年9月25日に石垣市指定史跡となりました。



久松五勇士と電信施設

日露戦争の頃には、ロシアのバルチック艦隊を発見した宮古島の漁師5名が、サバニ（琉球伝統の漁船。明治期に刳舟から矧舟になった）で石垣島の平久保にたどり着き、「敵艦見ゆ」の電報を打ったそうです。これが、久松五勇士の活躍ですが、これは、当時、宮古島には電信施設がなかったためと言われます。

現在も、石垣市平久保には、久松五勇士上陸の地を示す記念碑が残されています。



戦争遺跡としての「デンシンヤー」

軍事目的で建設されたこの施設も、通信省へ移管され、一般にも利用されるようになりました。しかし、太平洋戦争の際には、連合軍の攻撃目標となって攻撃されました。その弾痕は、今でも建物の至る所に生々しく残っています。

この建物は、石垣島の電信史として重要であるとともに、平和教育に生かす資料としても、たいせつに保存していく必要があります。

元海底電線陸揚室を見学なさる皆さまへ

同地の周辺には、個人有地である牧場があります。

見学の際には、地域のみなさまにご迷惑にならぬようご協力ください。

また、大崎牧場前から元海底電線陸揚室側（海側）へ向かう道は、幅が狭く、舗装もされていません。

レンタカーでお越しの場合には、十分にご注意ください。

